

あぜみち

花開いた小さな夢の種

電気が昭和三四年に灯り、当時水道もなかった山合の集落が、年間二万人のお客様を迎えることができるようになりました。

緑に囲まれたこの江刈川地区には、水車が三基、川の水で廻り、元気に粉を挽いています。

どの家でもそばを打つことができた集落でしたので、そばを活かした地域づくりを全戸加入でスタートしたかったのですが、猛反対に合い、高家領水車のお母さん達で始めました。当時「おらほの嬢の打つそばを、こんな田舎まで食べに来る人いないべ」とか、誰も来なくて損をしたらどうするべ」など、夫や家族の反対の中、母さん達が私達夫婦の提案に参加するのは、どんなに大変な事だったでしょう。一人一人の家を説得に廻り、母さん達の心のケアをしながら、人生を変えてみませんかと参加を呼びかけました。そして、いつ来てもおいしい江刈川のそばが食べられる店をと、平成四年十一月そば食堂を作りました。

はじめは、「おらあ何もできねえ」「人様に食べさせるようなそば打てねえ」という母さん達でしたが、良い所、できることを見つけ「すごい」と心からほめ励ましてきました。どんな芽が出て、花が咲き、実

になるのか分からない小さな小さな夢という種を、母さん達の心にまいて歩きました。不安の中で開店したそば屋でしたが、九年目を迎えた今、母さん達は大きなひまわりの花を咲かせた人、きれいなバラの花を咲かせた人、すみっこでかれんなすみれや野菊を咲かせている人、さまざまです。

「お母さんおいしかったよ、また来るから」と言われうれしかったこと、そば屋に来れば仲間と話ができることなど、森のそば屋は母さん達の、喜びと生きがいの場になりました。「そば屋に来るのがおもしろえ」と話してくれた七二歳のおばあちゃん、死ぬまでそば打とうね。水車が廻る山合の里江刈川が、みんなの心のふるさと、やすらぎの里になることを願っています。

(岩手県葛巻町 高家章子 森のそば屋創
夢長)